

質問

抗がん剤治療の前には毎回血液検査があります。体調は悪くないのに、検査結果を見て「今日は治療を延期しましょう」と言われたことがあります。なぜ延期になることがあるのでしょうか。

抗がん剤前の血液検査



藤田 望

徳島大学病院
医療技術部
主任臨床検査技師

回答

抗がん剤治療の前に血液検査を行うのは、がんや体の状態を正しく把握し、安全に治療を続けるためです。採血のたびに「今日は治療を受けられるだろうか」「数値が悪かったらどうしよう」と不安になる方も少なくありません。しかし、検査はその人に合った治療を行うために大切な情報です。抗がん剤はがん細胞だけでなく、血液を作る骨髓にも影響を及ぼします。まず確認するのが、白血球や血小板などの血液細胞の数です。白血球の一種で、細菌などを攻撃して排除しようとする好中球が減少すると感染症にかかりやすくなります。また、出血時に血を固める働きをする血小板が減少すると出血しやすくなります。こうした変

体の状態 正しく把握



化は自覚症状がないまま進行することも多く、血液検査で早期に見つけることができます。

次に、肝臓や腎臓の働きです。多くの抗がん剤は肝臓で代謝され、腎臓から尿として排泄されるので肝機能と腎機能が低下する恐れがあります。そのため、肝機能や腎機能の指標となるAST、

ALTやクレアチニンなどを測定し、薬を安全に使用できる状態かどうかを調べます。

抗がん剤や分子標的治療薬、免疫療法は薬によって起こりやすい副作用

がん何でもクイズ

日本で最も罹患数が多いがんはどれでしょう。

①胃がん②肺がん③大腸がん

行こうよ！がん検診



安全で効果的な治療のため

が異なります。そのため医師は使用する薬がどこに影響しやすいかをあらかじめ想定しています。血液検査だけでなく、必要に応じて心電図や心エコーなども組み合わせながら、副作用の早期発見に努めています。治療が遅れると「治療が遅れてしまう」と心配になるかもしれませんが、延期は治療をあきらめることではなく、重い副作用を防ぎ、より安全な状態で治療を続けるための前向きな調整です。検査の目的は、「治療の効果を最大限に引き出すこと」と「治療による体への負担を最小限にすること」の両立です。臨床検査技師は、検査結果を正確かつ迅速に提供し、医師や看護師など情報共有して患者一人一人に合ったがん治療を支えています。不安や疑問があるときは、一人で抱え込まず、医療スタッフに相談してください。

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442

(平日午前
8時半から
午後5時
まで)

